

冬至(十二月)師走

北半球で日照時間が一番短くなる冬至は新暦で十二月二十二日頃ですが、旧暦では十一月に来ます。日に日に日照時間が短くなることに遠い昔の人は恐れを抱き、ある時から日照時間が回復して来ることを実感してどんなに喜んだことでしょう。

万物に生命を与える太陽の力が一番弱まる日は、逆にいえばこれからしだいに力がよみがえる一陽来福(いちようらいふく)の日です。冬至は太陽が戻ってくる日として世界中で祝われたそうです。

日本では南方から来た栄養価の高いかぼちゃ(南瓜)を食して寒い冬をのりきり、小豆の入った「冬至粥」で厄をよけます。また、柚子湯につかり身をかため陽の気が満ちて来ることを祈ります。

影の長さでわかる冬至は、目に見える一年の節目ですから、太陽と月(太陰)の動きで太陰太陽暦(旧暦)では暦の計算の起点となりました。そのために十二支を十二ヶ月に割りふるときには十一月が「子(ね)」の月となります。

植物としては、かぼちゃや柚子などが使われます。(村島)

